

# 鹿児島県 SDGs未来都市「徳之島」 "豊かさ"溢れる島民の暮らしエコツアーリズム開発体験

- プログラム概要** : 2021年に世界自然遺産に登録された豊かな山・海。それらの自然とともにある島民の暮らし。自然や人に感謝する「文化」や助け合いの精神である「ユイ」。徳之島では自然とともに織りなされてきた人々の暮らしの中に様々な"豊かさ"が存在している。本プログラムでは徳之島の一つの集落を舞台に"環境文化"という視点で住民から"歴史"や"文化"など、大切にしている"豊かさ"をインタビュー取材し、それをもとにエコツアーコースを開発する。
- 実習先** : 鹿児島県 徳之島町下久志集落
- 実習先情報** : 徳之島町は2019年「SDGs未来都市」に選定。2021年には「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」として世界自然遺産登録
- 参加人数** : 10名
- 学部学科** : 建築デザイン学科、幼児教育学科、経営学科、サステナビリティ学科、人間科学科、グローバルコミュニケーション学科、法律学科、データサイエンス学科
- 実習期間** : 令和5年8月17日～8月25日
- 本学担当教員** : 梅田大輔

「しまを愛し、まだ見ぬ自分を見つけ、下久志の魅力を楽しく学ぶ。現状維持ではなく、それ以上のつながりを」

島の人々が自然と関わり、相互に影響を与え合いながら形成してきた「環境文化」のある徳之島。同じ島の中でも地域ごとに多様な文化があり、人々の暮らしの中に息づいています。私たちは徳之島町下久志集落の生き方を体験的に取材し、そのかけがえのない価値を言葉にし、それが伝わるエコツアーを考えることに取り組みました。自然環境の保全、観光の振興、地域の持続的な振興を両立させるという、まさに今、徳之島が取り組んでいるテーマに少しでも寄与することを目指しました。

## ■INPUT&ACTIVITY

[オリエンテーション8/18]

徳之島とはどのような場所なのか、徳之島ならではの生物や場所についてお話してもらいました。徳之島に初めて来て、徳之島について何も知らなかったのですが、オリエンテーションでいろいろな知識を得ることができました。

[下久志集落フィールドスタディ8/18]

私たちは徳之島の下久志集落というところに訪れました。下久志集落は山と海に囲まれている集落です。そのためとても農地に適しています。集落の中には水の神様を崇める場所さらには集落の伝統行事を行う場所など様々な集落の伝統、文化について知ることができました。

[森に触れる・剥岳林道エコツアー8/19]

エコツアーガイドの常加奈子さんとともに自然遺産に登録された剥岳林道を歩いてきました。葉っぱを味見してみたり、匂いをかいでみたり普段の生活の中ではできないことを常さんとともに見学したことで体験することができました。また、剥岳林道には赤外線防犯カメラが複数設置してあり、貴重な生き物や植物が乱獲されないように24時間体制で監視されています。自然遺産に登録されたことで、自然あふれる剥岳林道を保護していくことの難しさや大切さを感じました。



### [海に触れる・磯歩き・追い込み漁見学8/20]

美しい海に触れ、岩場の散歩を楽しみました。散歩の途中で浅瀬に住む生き物を見ました。クラゲや貝、小さな青い魚などです。その後、地元の人が潜るには危険な場所や魚の捕り方について説明してくれました。この日は徳之島の自然を体験し、地元の人たちと交流することで海について多くを学ぶことができました。徳之島の海的美しさと魅力の中で過ごした午後は、忘れられない体験となりました。



### [集落の方へのインタビュー取材 8/20・21]

私たちは2日間に渡って、島民の方々にお話を伺いました。自分たちが興味を持っていた、徳之島の魅力・伝統文化・暮らし・考え方・継承していきたいもの等について詳しく聞くことができました。特に印象に残っているのは、ジャボチカバという果物があるというお話です。美しい風景や動植物以外にも、徳之島には魅力があることを発見できた良い機会でした。



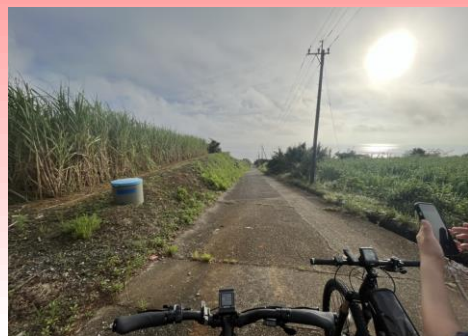
### [集落の活動体験 グランドゴルフ 8/20]

たくさんの方々と分校で行いました。1番から8番までのコースで番号の振ってある旗の穴に入れるまでの打った回数で、より少ない数でゴールした人が勝ちというルールで遊びました。地域の方々と交流をより深めることができ、難しかったですが楽しかったです。



### [E-バイク 体験 8/20]

宿舎から公民館に行く時に使ったり、島の中のいろいろな景色を見る時に使いました。朝にE-バイクを使って朝日を見たり、植物のお話や鳥のお話などを聞き、都内にいたら見られないような景色や動物を見ることができました。



### [犬の門蓋 (いんのじょうふた) 夕日見学8/21]

犬の門蓋で見た夕日は、驚きと興奮に満ちた瞬間でした。巨大な岩の間から海を眺めるのは、まるで自然の目を身につけたようでした。空は夕日で赤く染まり、海と空がひとつになったような感覚を覚えました。太陽が沈む際に、空が赤やオレンジに染まり、海に映る姿は言葉では表せない美しさでした。その瞬間、自然の雄大さと美しさを強く感じ、心が穏やかになり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。



### [アマミノクロウサギに会いに行くナイトツアー8/21]

私たちは夜にナイトツアーを行いました。ナイトツアーではアマミノクロウサギはもちろん、オビトカゲモドキやケナガネズミなども見ることが出来ました。一度ライトを完全に消し、真っ暗な世界を体験したことは初めてだったので感動しました。元々人間と動物の間に柵はなかったということは忘れずに行動していきたいです。

### [野中かなさんの映画鑑賞 8/22]

自分たちと同級生の野中さんが高校時代に脚本、主演を務めた映画の鑑賞会に参加しました。女優を目指す中でなかなか演技する場面がなく、「それなら自分で映画を作っちゃおう！」と夢に向かってどんなことでも挑戦する野中さんの行動力に感動しました。また、同級生ということもあり自分たちにとってもとても刺激になりました。

### [ビーチコーミング 8/24・25]

早朝の海辺に集まり清掃活動を行いました。その中でペットボトルなど、マイクロプラスチックの漂流物が多く見つかりました。それらのゴミが生物や環境に与える影響についても考えることができ、今回のコンセプトでもあるSDGs「エコツアー」の内容にも取り込むことができたのでよかったです。

### [夜光貝磨き体験 8/25]

真珠層と呼ばれる光る層がある夜光貝を5種類のやすりを使って磨き、自分だけのアクセサリを作るという体験でした。熱で性質が変わってしまうため水につけたり、次のやすりにいったら戻れないなどの色々気を付けることがありましたが、皆楽しく作ることができたのでよかったです。

### [BBQ 8/25]

役場の方々が手配してくれたオーシャンビューBBQに参加しました。大量のお肉や生のマンゴー、イノシシの肉もおいしくいただきました。たくさんの人と交流でき、とても楽しい2日間となりました。役場の方々には感謝しかありません。



## ■OUTPUT&PRESENTATION

[取材した音声の文字起こし 8/21-22]

エコツアーを作成するにあたり、二日間にわたり住民の方へインタビューを行いました。そしてそのインタビュー内容を録音して文字に起こすという作業を行いました。お話で聞くのと文字に起こして活字で見るのとではまた違う見方ができ、新しい発見を得ることができました。

[エコツアーコンセプトの言語化 8/22]

徳之島での体験やインタビューで聞いたこと、感じたことを1人30案ずつ、紙に書き出し、エコツアーのコンセプトを班ごとに言語化していく作業です。インプットしたことをアウトプットしていくことは容易ではなく、困難でした。他者の意見を参考にしたり、共有することで自分自身の思考力等が向上したと思います。

[エコツアープラン作成・準備 8/22-23]

班ごとに決めたエコツアーのコンセプトに沿って、コース決めや解説の原稿作り、クバの葉や茎を用いて、杖やうちわ、日傘作りをしました。班ごとにそれぞれの特色が活かされたエコツアープランができました。

[エコツアーガイドとしてツアーを実践 8/24]

副町長など島の方たちに来ていただき、自分たちの準備したエコツアーを発表しました。各班それぞれ発表に工夫を持たせ、エコツアーの参加者をもてなすことができました。発表後は反省点などもありましたが、楽しくできたエコツアーでした。

[徳之島・下久志 幸せ持続100アイデア出し 9/2 事後授業]

徳之島町、下久志集落の幸せを持続させていくアイデア出しを事後授業にて行いました。100のアイデアを出すことを目指し、考案したアイデアを壁に貼り、分類分けをしてまとめ、「食」「体験」「商品開発」「配信」「建物・施設」「自然アクティビティ」「イベント」「その他」というカテゴリーで、126のアイデアを考案しました。



## ■振り返り（実習日誌より抜粋）

- 私は将来起業をしたいと考えている。離島に移り住み、新しい事業を起こす際に補助金を支給してもらえる制度を知り、島での生活を体験したいと考え、このフィールドスタディーズに参加した。徳之島で起業をしている福本さんたちのお話も聞くことができ、とても勉強になった。（甲斐智也 経営1年）
- 今までの人生の中で最も深くて濃い9日間を過ごし、とても別れが悲しくなりました。徳之島の文化は必ず次の世代に伝えなければいけないし、僕もその一員になりたいと強く思いました。（荒井海理 法律1年）
- エコツアー本番では、参加してくださった方々が、楽しかったと言ってくれたのがとても嬉しかったです。私は、この徳之島で誰かの心を動かすという目標を立てましたが、少し達成できたのではないかと感じました。そして、何より私自身の心が動きました。大きく成長できたと思います。徳之島で過ごした9日間は、とても濃い時間でした。これで終わりにするのではなく、次に繋げてもっと成長できるようにしたいです。（高梨紗羽 幼児教育1年）
- 一つの集落で9日間を過ごして、そこに住む方々の暮らしや歴史、地域性について自分の行動によって知ることや体験をしたうえでその魅力を伝えるという経験ができたことは、これからの建築を学んでいくうえで、自分ならではの発見や魅力をどう伝えて、その場所がどうなっていきたいか、人々にとってどんな居場所になってほしいのか考えることに似ていて、とても良い経験になったと感じています。（志村珠那 建築1年）
- 人見知りでコミュニケーションが苦手だったが島の方々や9人のメンバーと過ごしていく中で、人と話すことはこんなに楽しいことだと体感できた。役場の方々や島の方、そしてこのメンバーに出会って本当に良かったと思う。島についての理解を深められたことはもちろん、人との繋がりが刺激的だった。（小出歩陸 経営1年）
- 私が今回のFSに参加した理由として、日本の新しい魅力を発見するという目標があった。始めは徳之島のことを何も知らなかったが、様々なアクティビティを通して、徐々に知っていくことができた。海を知り、山を知り、暮らし・文化を知る。1つの集落を理解するのに多くの時間を要することを身をもって感じた。（菅野花梨 グローバルコミュニケーション1年）
- 約9日間、ずっと日本語を話したり聞いたりしていたので、私にとっては大きな挑戦であり試練だった。現地の人々やチームメンバーとのコミュニケーション能力が向上し、円滑な協力関係を築くことができたと思う。全体として多くの目標を達成することができた。地域の自然や文化を深く理解し、実践力とコミュニケーション能力を向上させることができた。（張耀光 人間科学1年）
- 長い実習だと考えていたが、始まってしまえばあっという間だった。楽しいだけではなく、学びも沢山あった。zoomで話を聞いていた際や、授業で習った内容だけではなく実際に体験することでリアルな声をたくさん聞くことができた。世界自然遺産にも触れることができたのは一生の思い出だ。（長島もま 経営1年）
- やりきった！頑張った！緊張した！エコツアーの発表では、教えてもらったことは全部話すことができた。もっとPRに繋がることもしてみたかった。自分ももっと徳之島のためにできることがあったのではと思った（武藤環 データサイエンス1年）
- 下久志集落におじゃまして昔のお話や貴重な伝統文化などを聞くことができ、このような伝統などを残していきたいと感じました。この9日間は、自然や伝統についてなど普段では考えないことについて考え直させられる良い機会だと思いました。自分の勉強する環境の分野にもいかしていきたいと思いました。（武翔吾 サステナビリティ1年）

## ■講師より

初めて訪れる場所での見る・知る・聞く・体験するといった膨大なINPUTから、それを理解、咀嚼し、姿勢を切り替えて、今度は自分が伝えるプログラムを開発し、相手をもてなすOUTPUT側に活動。これをわずか数日で行うことはそう簡単なことではないわけですが、それを凝縮した9日間の活動に10人のメンバーが挑みました。本当にできあがるのだろうかと直前までハラハラする途中経過でしたが、エコツアー発表は3班それぞれが工夫したストーリーで参加者を案内し、良い評価をいただくことができました。特に今回は下久志集落の川上福良さま（86歳）から、集落文化について多くの情報提供をいただき、昔の子どもの遊び「さーつき」を復活させるなどの企画につなげることができました。

## ■実習先より

都会とは全く異なる環境で、最初は戸惑いや不安などあったかもしれませんが、集落での経験の中から一回り大きく成長する学生たちの姿を見ることができました。最後のエコツアー発表では、きめ細かい気遣いをしながら慣れないガイドを立派にする姿がとても印象的でした。短い時間でしたが、多くのインプットの中から集落の魅力を引き出して頂き、行政にはない発想も頂きました。ありがとうございました。この貴重な経験を宝にして大学生活に活かして頂きたいです。そして、今後も徳之島町と何らかの関わりを持って頂ける幸いです。（徳之島町役場 企画課 梅山 良介）

徳之島県でのFSお疲れ様でした。初めて来る徳之島で、「青い海」や「世界自然遺産」といった分かりやすいテーマではなく「集落の記憶」という非常に大切であり、言語化し難い視点で多くのことを肌で感じ、限られた時間の中で自分たちなりにエコツアーにまとめ、緊張しながらも立派にガイドとして案内してくれました。その姿に我々島民はたくさん元気をもらいました。また、事後学修の100のアイデアもとてもユニークで素敵でした！皆さんがこの夏この島で、悩み驚き感動し涙を流して得たものは間違いなく一生の宝物になると思います。何かあったらこの島の海を、風を人へ、島での記憶を思い出してください。徳之島はもう皆さんの“心のふるさと”です。またいつでも帰っておいで。再開を首を長くして待っています♪

（徳之島町 地域おこし協力隊 徳之島 サブシマコーディネーター 結や-MUSUBIYA- 福本 慶太）



## エコツアー コンセプト&ストーリートップ賞 A班チームジャミール

つむぎ  
糸紡

朝日は海から顔出し夕日は山に落ちていく。  
つむぎが感じられない時間の流れがある。

～ひとの糸紡～

ドラゴンフルーツ命かけて作る隣人、島を出た後再び島に戻ってきて作る息子、  
困ったときの助け合い

～自然の糸紡～

少し歩いたところにある色鮮やかな海、空を見上げるのが広がる天の川、  
野草をいしく調理する知識、クワサギの生活保護のためのセネバの植樹。

～文化の糸紡～

島唄を継承する活動が続いているお父さんたち、ハンダの場のか石、  
青年団の閉鎖を続けている十五存存り。

様々な糸紡の輪が広がっているしま、徳之島。  
これらの物語を体験し一緒に紡ぎましょう！！

さまざまな事象を「紡ぎ」という捉え方でつないだ。

ぼんやりと観念的になりがちなところを、「ひととの」「自然との」「文化との」と3つに分解したうえで、さらに具体的な事象につなげることができた。大きい概念から形のある事象へ、という流れが、聞いている側にはとても伝わりやすくできている。

さらに「紡ぎ」を、クバの葉を編み込んだ日除けでシンボル化し、エコツアー途中にも話すことで参加者の心にコンセプトを残すことに成功した。  
(梅田)



## エコツアー サステナビリティスローガン賞 B班チームボーチャン

いつまでも  
そばにあると思うな  
島のもの

「持続可能性」「サステナビリティ」といった外来の概念としてしか表現できていないことを、わかりやすく伝わりやすい言葉にできている。「いつまでもあるとおもうな親と金」というよく知られた言葉をベースとすることで、誰にでもわかるメッセージ性を持った。  
(梅田)

## エコツアー コピーライティング賞 A班チームジャミール

朝日は海から顔を出し夕日は山に落ちていく。

いい言葉は映像を伝送する。この言葉にはそういう力がある。この一言だけで、徳之島の東側の地域、下久志を知る人の頭のなかには、時間の流れを伴った情景が映し出される。コンセプトにはなりにくい小さな言葉だが、ストーリーの導入に使ったことで、ぐっと引き込むことができた。この言葉もあったからこそ、「紡ぎ」を概念的に感じさせず、実感をともなうように感じさせられていた。(梅田)

## 取材時の質問・フィードバック発言賞 B班チームボーチャン 武藤

(藤山さん)

それ(文化伝統)が見直されてきてるから、一番いいチャンスじゃないかなって思っ  
て島に一杯伊アロいるな形ができて根付いてもらいたいなって。そんなしていっぱい  
集まるからしているいろいろな文化が生まれるんじゃないかな。何もない今の状態だっ  
たら、もうどんどん落ち込んでいくからやっぱりいろんな企業もね誘致してくれたら後  
は徳之島町長に期待してるところですよ。

(武藤)

やっぱり人がいてこそその  
文化ですもんね。

(藤山さん)

そうそう。ほんとはね15夜という行事があるんですが、その時にきたらよかった  
のー

お聞きしたことを受け止めて、咀嚼したことをフィードバックできているB班メンバーの発言。この「やっぱり人がいてこそその文化ですもんね」の言葉、でさらに藤山さんから十五夜祭りの話などをその後、引き出せている。藤山さんのお話を流してしまわずに本質を掬い取った素晴らしい発言。(梅田)

## はんた石持ち上げ新記録 A班チームジャミール 甲斐



集落で力自慢に使われてきたはんた石を、集落の長老・川上さんにアドバイスをもらいながら胸まで持ち上げることができた。これまでの武蔵野大生最高記録を打ち立てた(梅田)